

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

|       |       |
|-------|-------|
| 都道府県名 | 宮 崎 県 |
|-------|-------|

I 学校の概要(平成15年4月現在)

|     |              |    |    |    |    |    |      |     |     |
|-----|--------------|----|----|----|----|----|------|-----|-----|
| 学校名 | 宮崎県山田町立山田小学校 |    |    |    |    |    |      |     |     |
| 学 年 | 1年           | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 特殊学級 | 計   | 教員数 |
| 学級数 | 2            | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 0    | 7   | 12  |
| 児童数 | 38           | 39 | 27 | 36 | 38 | 36 | 0    | 214 |     |

II 研究の概要

1、研究主題

将来に夢や希望を持ち、自分で道を切り拓いていくための基礎的・基本的な力や態度の育成～確かな学力向上のための実践研究  
(個に応じたきめ細かな算数科学習指導を通して)～

2 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

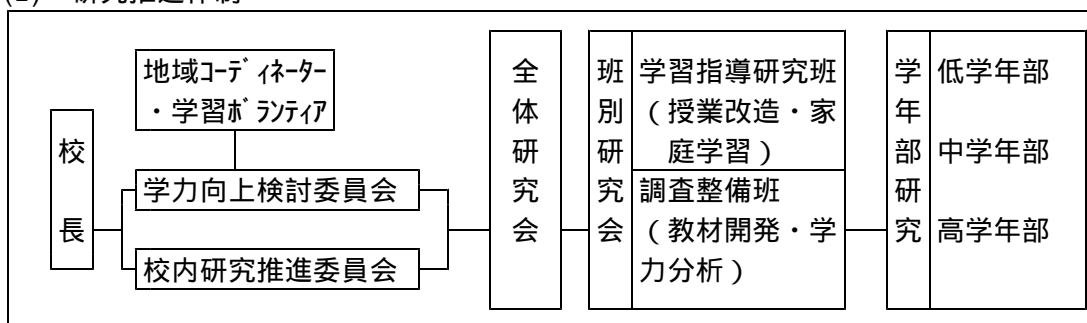
\* 2年・算数、3年・算数、4年・算数、5年・算数、6年・算数  
児童の実態調査の結果から、算数科の習熟度が低く、きめ細かな指導の方法を学年を通して少人数指導で探究するため。

(2) 年次ごとの計画

|        |   |
|--------|---|
| 平成15年度 | <p>確かな学力向上のための実践研究<br/>～個に応じたきめ細かな算数科学習指導を通して～</p> <p>研究の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>研究の方向性の検討及び児童の基礎学力の実態調査、保護者の意識調査</li> <li>研究組織と学習指導体制の検討、公開学校参観日の開催</li> </ul> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習指導方法、学習形態の工夫・改善</li> <li>少人数指導における指導体制の工夫</li> <li>学習環境、地域人材の活用、小中連携</li> </ul> |
|--------|---|

|        |  |
|--------|--|
| 平成16年度 | <p>確かな学力向上のための実践研究<br/>～個に応じたきめ細かな算数科学習指導を通して～</p> <p>研究の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2年次の研究組織の見直しと研究内容の焦点化、公開授業(実践)</li> <li>児童の変容を計るための資料準備、指導体制、小中連携</li> </ul> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>少人数指導における指導体制の工夫～授業研究を通して～</li> <li>実務的な研修講座の工夫、教材開発</li> <li>学習環境の工夫と児童の変容(学力)分析</li> </ul> |
|--------|--|

(2) 研究推進体制



Ⅲ 平成15年度の研究成果及び今後の課題

1、研究成果

- \* 算数復習テストを9月と1月に実施したが、各学級の平均点が高くなり、満点を取る児童が多くなった。また、県が実施した基礎学力調査結果では、少しずつではあるが、年ごとに平均点が高くなっている。
- \* 公開学校参観日の実施で、地域の方々の理解を促し、協力体制の期待が持てた。
- \* 習熟度別指導を通して、問題解決に対する意欲が高まり、算数が好きな児童が増え、チャレンジ精神やできる喜びを感じ取れている様子が見えてきた。
- \* 少人数指導を通して、学習指導案の複線型や学習形態の工夫が充実した。

2、今後の課題

- \* 基本的な学習態度の習得の徹底
- \* 児童の変容（学力向上のあと）を把握する適切なデータの累積
- \* 外部講師、ボランティアも活用した指導体制や学習指導形態の研究
- \* 習熟度を中心とした少人数指導におけるきめ細かな指導の研究
- \* 家庭、地域との連携、小中連携
- \* 国語力（読書力）との相関関係を軸にした研究
- \* 学習環境との相関関係を軸にした研究

Ⅳ 学力等把握のための学校としての取組

- \* 課題を与え、算数復習テストとして、夏季休業終了後の9月と冬季休業終了後の1月に実施している。
- \* 1月から2月にかけて、県実施の基礎学力調査の分析とつまづき教材、スキルの作成の基盤作りを行い次年度につなぐ。（無学年制系統学習教材パワープリント）
- \* 2月にCRT検査を実施し、学年の到達度を分析し、補充学習に生かす。

Ⅴ フロントアスクールとしての研究成果の普及

- \* 公開学校参観日の実施（平成16年2月8日<日>、山田小学校において、保護者・地域の方、学校関係者を対象に、授業、児童発表、パネルディスカッション実践公開を行った）。
- \* 公開学校参観日のパンフレットを300部作成し、関係者に配付した。
- \* 平成16年11月、本年度の公開学校参観日を踏まえ、実践公開を行う予定。
- \* フロントアスクールティーチャーとしての研究成果普及のため、近隣学校の職員研修の時間帯に活動実績の報告会として年間計画に位置づけてもらい、足を運んで回る。日本の姉妹校を見つけ、また、海外の学校との情報交換を行う。
- \* TV、ラジオ、新聞、インターネット等、マルチメディア活用で普及活動を展開。